



# 鎮守の森だより

NPO法人社叢学会ニュース

第97号

2019年1月7日

## “いのちの森づくり” エコ社会をめざして

NPO法人社叢学会理事長・京都大学名誉教授

藺田 稔

新年明けましておめでとうございます。全国各地でご活躍の会員諸兄姉におかれては、それぞれ土地の風土に祀られる鎮守の森に初詣でをされて、すがすがしい気分を新たにされたことと拝察いたします。去年の年頭にも「御代替わりへの予感と文明的現実」と題して所感を申し述べましたが、果たして満30年の時代を閉じる年間を通して、昨年は国の内外に激しい天災人災が頻発して国際的な世情も何やら制度疲労を呈してきた感が否めません。こんな時にこそ心機一転の御代替わりを迎えたいものです。

さて本学会の進路にも関連する当面の課題に、国際的文明レベルの気候変動への取り組みと、国内的文化レベルの深刻な社会的過疎化への対策があります。

前者に関連しては、やはり過去の年頭所感に言及したように、1997年12月の「京都議定書」以来の国連における一連の地球温暖化対策会議が繰り返され、特に2015年12月にパリで開催された国連気候変動会議COP21において196の国と地域が全会一致で採択した「パリ協定」が、2020年以降の地球温暖化対策に関する国際的枠組みで全世界的合意に達して翌2016年に協定が発効し、次の17年6月に米国トランプ大統領が締約国から離脱したものの、同年11月のCOP23ボン会議で協定実施に向けての作業計画が策定されるなど、来年の対策実施に近づいたところですが、つい昨年末のCOP24

カトウィツェ(ポーランド)会議では、政府間パネル(IPCC)での温室効果ガス排出量削減に関する最終合意が米・露やサウジアラビアの異議で骨抜きになったとのこと。同パネルの報告では、今すでに地球全体の平均気温が1.5度上昇しており、2度以内の目標達成には一層の対策が必要と警告されるだけに、事態は深刻のようです。

後者の国内的な社会全体の少子高齢化がもたらす地方の過疎化と都会のスポンジ化の深刻な現象については、鎮守の森の保全育成を目指す社叢学会にとってもより切実な事態でしょう。なぜなら、鎮守の森は、それを大切に保全してきたコミュニティの健全な営みあってこそその文化的環境財だからです。私が属します神社界でも、全国8万の多くを占める地方の小規模神社を維持経営する氏子集落の過疎化を憂慮して、近年は各都道府県ごとに過疎地域の神社と集落を共に活性化する対策に取り組んでいますが、今のところ、伝承する神事や神賑わいの郷土芸能を賦活する祭礼行事を通して、とかく孤立し勝ちな住民たちの結束を促しつつ、総務省が提唱する意味での多面的な「関係人口」を増やす工夫が、まずは必要でしょう。

それにしても、我ら社叢学会が目指す森林文化の保全育成こそは、地球温暖化の世界文明的危機に対処する森林緑化へのメッセージであり、過疎化社会への文化的対処なのだとの想いを、会員すべての皆さんと共にしたいものです。

**速報!**

**年次総会は 6月22日・23日に九州で!**

総会・研究発表・シンポジウムは22日(土)に太宰府天満宮で  
見学会は23日(日)に神話のふるさと・高千穂をじっくりと



## 福島第一原発事故による里山の放射線の状況と防護対策

講師：小林 達明 (千葉大学園芸学部長 同大学院園芸学研究科長)

### 1. 避難解除後の課題

福島第一原発事故の緊急時に取られた放射線防護対策は避難と除染であった。汚染によってふるさとを可能な限り取り戻すことが求められ、年間の追加被ばく線量が20mSvを超えると推定される地域を計画的避難区域と設定し、当該地域を段階的かつ迅速に縮小することを目指すよう国による除染事業が進められた。

避難解除され住民が帰還すると、地域で生活しながら復興に取り組むことになる。被ばく状況（緊急被ばくの後の長期被ばくなど、すでに存在している線源がもたらす被ばく管理についての決定をしなければならない状況）では、被ばくレベルは個人の行動によって左右される。自分で目標を立てて行動し、被ばくを管理しなければならない。里山地域では生活圏に除染されていない森林があり、それを全く避けて生活することはできない。地域内に汚染状況の異なる区域が存在する中で、一定のリスクを客観的に管理しながら生活設計し、行動を選択する必要がある。

地域の放射線量に関する情報は、住民の自助努力による放射線防護対策のために欠かさない。公共施設や住民周辺の情報は蓄積されているが、農地では必ずしもそうでないし、除染対象でなく線量の高い森林に至っては実態が把握されていない。

里山での生活では、内部被ばくの管理も重要になる。食品については、食品衛生法による厳しい基準値が定められ、生産地では細かいチェックが継続的になされており、市場を流通する食品は全く問題ないと言ってよい。しかし、自家消費用の作物や山菜にはそのようなチェックが入らないため、別の考え方が必要である。チェルノブイリ事故後定められたベラルーシ、ロシア、ウクライナの食品基準は、食品の種類によって基準値が異なっている。日頃 欠かさず摂取する水やパンの基準は最も厳しく、乳児の食品基準値も低い。一方、摂取量は少ないが、住民の大きな楽しみになっている山菜類の基準値は高く設定されている。また、生活習慣の違いにより基準値は国によって異なっている。

千葉大学のチームでは、学生のインターンシップ先として交流のあった福島県川俣町山木屋地区に入り、事故後の対策にあたった。山木屋地区はたおやかな阿武隈山地に開けた盆地で、丘陵と平地が細かく入り組んだ地形の中に、集落とそれを取り巻く二次林、混在する農地、ため池、草原などが配置され、生業が展開されてきた典型的な里地里山地域であっ

た。生物多様性が生かされてきた現役の里山の生態系に、自然界にはない放射性核種が大量に流れ込み、里山と共生してきた人々は山のことを一番に心配していた。

そこで除染対象とならない丘陵の森林を源とした田畑の二時汚染の検証、里山の産物の汚染状況と対策、森林生態系内の放射性物質の動きを把握し里山の今後の予測を行うこととした。

### 2. 山菜の汚染状況

フキノトウ、タラの芽、オヤマボクチ、ワラビ、コバギボウシ、ヤブレガサなど若芽を食べる山菜はいずれも200Bq/kg以上とやや高く、摂取を勧められる値ではなかった。コシアブラは最も放射能が高く測定個体のすべてで4000Bq/kgだった。林内に生育する植物は特に高い傾向にあった。

キノコでは、有機物の少ない地下の土壌母材層に生息するシロウだけは100Bq/kg以下だったが、ほとんどが200Bq/kg以上だった。森林生キノコであるコウタケ、タマゴタケ、ウラベニホテイシメジ、ムレオオフウセンタケ、ヤマドリホテイシメジ、ハツタケ、シロハツはいずれも2000Bq/kg以上で、チチタケはとくに高かった。木材腐朽菌のナラタケとシヤカシメジは2000Bq/kg以下でやや低い傾向にあった。コウタケは季節になると関係の深い家々の間で交換され、地域社会にとって特別な意味のある存在であっただけに、とくに残念である。

### 3. 今後の森林汚染の変化について

今後、樹木の汚染はどこまで進行するのだろうか。予測する鍵は、もっとも放射性セシウムが蓄積している林床と土壌のセシウムの形態にあると考え、分析を行った。粘土鉱物に固定されたセシウムは極めて安定した状態にあるため、植物には吸収されないとされる。空間放射線量を高め、外部被ばくの原因になることはあっても、生態系を循環して内部被ばくの原因になることはない。分析の結果、有機物層でわずかに存在するものの鉱質土層ではほとんど存在しなかった。有機物層でも灰分が3割強あり、粘土鉱物が少なからず含まれている。事故当初、大部分イオン態で存在していたと考えられる放射線セシウムだが、時間が経つにつれ次第にエイジングが進行し、有機物層でも固定化が進行したと考えられる。

森林を汚染しているセシウムの循環経路は以外と狭く、植物に摂取される形態のセシウムをうまく処理することができれば植物体への汚染の進行を多少とも食い止めることが可能かもしれない。

(文責 渡邊 節子)



## 尾張北部の古墳と神社の系譜

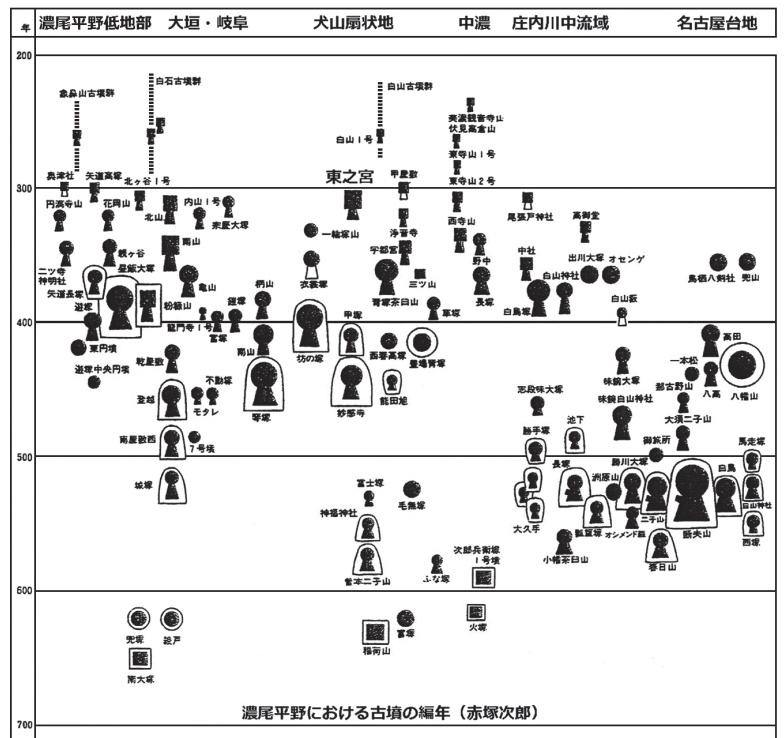
話題提供：赤塚 次郎（名古屋経済大学犬山学研究センター客員教授）  
 コメンテータ：櫻井 治男（社叢学会理事・皇學館大學特別教授）

木曾川・長良川・揖斐川・庄内川などの大河川が山間から平野に流出する台地の縁にあって、濃尾平野を見下ろせる場所に、数多くの古墳群がある。濃尾平野西部の岐阜県養老町付近には、南宮山の東南端に位置する象鼻山の山頂に約70基の古墳がある象鼻山古墳群など。大垣市や岐阜市付近には、金生山神社周辺に11基が現存する金生山古墳群や昼飯古墳群・白石古墳群・内山古墳群・明音寺古墳群など。犬山扇状地には、丹羽郡大口町の白山神社本殿を1号墳とする白山古墳群など。可児盆地など中濃地域には、東寺山古墳群・可児古墳群・身隠山古墳群など。庄内川中流域には尾張戸神社を中心とする志段味古墳群など。3世紀前半には、邪馬台国周辺では前方後円墳が、濃尾平野から関東・北陸に至る狗奴国周辺では前方後方墳が多く造営された。

愛知県犬山市にある愛知県で最古級の古墳時代前期の前方後方墳である東之宮古墳は、1973年の盗掘を受けて発掘調査が行われ、75年に国の史跡に指定された。東之宮古墳は標高145mの白山平にあり、周辺は東之宮社・成田山名古屋別院・瑞泉寺塔頭群・成瀬家墓所があるパワースポットであり、犬山市内をはじめ濃尾平野が一望できる景勝地でもある。発掘調査の結果、長さ5m・幅1m・深さ1.2mの竪穴式石槨の中から、整然と配置された219点の副葬品が発見され、内訳は人物禽獣文鏡など銅鏡11枚、勾玉・管玉など玉類141点、鋳形石・車輪石・土岐石で作られた合子など石製品7点、鏃・刀・剣・槍・斧など鉄製品60点である。

埋葬者は不明であるが、埋葬跡には多量の水銀朱が残っており、元は犬山市を含めた地名である丹羽郡の基となる地域である「ニウ」を治めた王の墳墓であると考えられている。東之宮古墳は3世紀末から4世紀初頭に造営されており、墳丘形式は前方後方墳であるのに、埋葬方法は極めて畿内的な竪穴式石槨で、濃

尾平野南部にあったとされる狗奴国の中心部から離れた場所でのクニの王の権勢に注目が集まっている。東之宮古墳の築造は、地山を削り出して墳丘を造り出した様子は確認されず、前方部・後方部ともに他所から運ばれた盛土によって構築されており、尾張地域の他の墳墓の造営方法と共通している。また、墳丘と石槨の軸線は冬至の日の出の方向を指しており、冬至の朝には多くの見物人で賑わう。世界文化遺産で人形くりを奉納する犬山祭は、犬山城の麓の針綱神社の祭礼で、針綱神社を出発して市中を練り歩き、最後に白山平の南麓から東之宮古墳を遥拝して終わる。針綱神社の祭神である尾治針名根連命（おわりはりなねむらじのみこと）と東之宮古墳の埋葬者との関係が注目される。



### 次回予告【第79回関東定例研究会】

- ◆日 時：1月26日(土) 14:00~16:30
- ◆場 所：國學院大學渋谷キャンパス120周年記念2号館  
(東京都渋谷区東4-10-28)
- ◆テ - マ：「日本のイチョウ巨木の遺伝的変異の地域性と分散史」
- ◆講 師：片倉 慶子(千葉大学大学院園芸学研究科修士課程2年)

## 井上満郎副理事長 京都市文化功労者に

井上満郎副理事長・京都産業大学名誉教授(古代史)が、永年にわたり京都市の学術・芸術などの文化の向上に多大の功労があったとして、文化功労者に選ばれた。

今年はこの他、櫻井治男理事・皇學館大學特別教授が南方熊楠賞を、岡村穰理事・名古屋市立大学名誉教授が地域環境保全功労による環境大臣表彰を受賞されるなど、当学会理事の報奨が続いた。

## 事務局から

- 謹んで新春のお慶びを申し上げますとともに、会員の皆さま方のご健勝をお祈り申し上げます。昨年も大きな災害が重なりました。毎年のようにこの言葉を繰り返しておりますが、今年こそは平安にと祈りつつも、心のどこかで今年はどうな天災に見舞われるのだろうかかと恐れていることも否定できません。困難な課題は山積しておりますが、身近な自然、社叢からの課題解決に今後とも力を尽くしてまいります。今年も変わらず、種々にご協力賜りますよう、よろしく願い申し上げます。
- 年次総会は九州で開催いたします。今年は初日に太宰府天満宮で総会・研究発表・シンポジウムを済ませた後、見学会に備えてバスで移動、翌日は神話の故郷・高千穂を訪れます。高千穂神社では特別に夜神楽を見せていただけることになっております。個人ではなかなか行き難い地域です。こ

の機会にぜひ、ご参加ください。

また、例年通り研究発表者を募集しております。こちら奮ってご応募下さい。

- 社叢インストラクター資格認定試験は京都での実施です。昨年の台風等による社叢被害からの復興では、社叢インストラクターが今後のあるべき姿を見据えた維持方針策定に協力するなど、大きな力を発揮し、その重要性も認識されて参りました。皆さまのご挑戦をお待ちしています。
- 社叢見守り隊は、目下、関東(武蔵・千葉)、関西(神戸市)で活動を重ねています。報告は社叢学会のホームページにブログとして掲載しています(<http://shasoumimamori.exblog.jp/>)。ご覧いただくと同時に、お住まいの地域でも「見守り隊」活動をお願いいたします。

## 編集後記

ブログね。はいはい、滞ってますよ、関東の。ふと気が付いたら3ヶ月前のが。。。う、すびばせん。で、大阪万博。愛知万博が05年だったから、あれからもうすぐ15年。あの時はタイヘンだったよなあ。ん?! 理事の一部が不穏な動き! **のぉ、のぉ!! 出展なんかしないぞぉ!**

考えてみても下さいまし。開催年は25年、6年後でしょ。ってことは6つツシを取るわけです。05年と言えば、まだ体力・気力充実(とは言えなかったような気もするけど。。。)の40代でしょうが。それが今度はリッパな老婆ですよ、老婆!

あ、わかった! フジオカは一刻も早く引退して、後進に道を譲ればいいんだ! (藤岡 郁)

## 社叢インストラクター資格認定試験

### 3/2(土)に京都で 出願締切りは1月末日

出願用紙はホームページ(<http://www.shasou.org/inst/gan.pdf>)に

## 研究発表者募集!

テーマ：社叢に関する理論的研究  
社叢の保存・拡充に関する実践的調査研究  
発表時間：20分(報告15分+討論5分)  
応募締切：2019年3月末日必着  
応募要領：住所・氏名を明記の上、発表内容を300~400字にまとめ、E-Mail、FAX、郵便で本部事務局に送付

\* 応募者多数の場合は担当理事で協議し、4月中旬までに諾否をお知らせいたします。

\* 発表者は、発表当日に配布する資料を4月未までに本部事務局にお送り下さい。

発行人 社叢学会事務局 〒604-8115京都市中京区雁金町373番地みよいビル303号  
TEL・FAX 075-212-2973 (FAX番号が変わりました)

URL <http://www.shasou.org> E-Mail [shasou@ams.odn.ne.jp](mailto:shasou@ams.odn.ne.jp)

facebook <https://www.facebook.com/shasou>

社叢学会関東支部 〒368-0041 秩父市番場町1-1 秩父神社社務所内  
TEL080-1514-5032 E-Mail [shasougakkai@hotmail.com](mailto:shasougakkai@hotmail.com)